

1 令和7年度第2回定例会

日 時:	令和7年7月10日(木)午後2時30分から午後4時30分
場 所:	中央図書館活動室2・3
出席者:	(図書館協議会委員)委員4名 (事務局)図書館長、企画運営担当1主査、企画運営担当2主査 総務担当主査、総務担当

会長	本日の欠席者は3名、成立要件を満たすため開催とする。これより多摩市図書館協議会規則第4条により令和7年度多摩市図書館協議会第2回定例会を開催する。 事務局から配付資料の確認をする。
事務局	資料は、次第、事前資料として既に配付している、資料1「令和6年度多摩市立図書館事業評価(自己評価)」、資料2-1「第二次多摩市読書活動振興計画(素案)について【概要版】」、資料2-2「第二次多摩市読書活動振興計画(素案)」、資料2-3「第1章 計画概要」、資料2-4「第2章 現状と課題」、資料2-5「第3章 基本理念と基本方針」、資料2-6-1「第4章 計画の内容」、資料2-6-2「4章の基本方針1」、資料2-6-3「第4章 庁内各課・市立学校の取り組み予定一覧(修正中)」、資料2-7「第5章 計画の推進体制」、資料3「多摩市立中央図書館の座席利用の変更について」、資料4「多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会設置要綱」となる。当日配付として、基本目標(2)の追加資料「令和6年度多摩市立図書館事業評価(自己評価)」、多摩市の図書館、会長より準備いただき自己評価を見易く組み替えていただいた評価資料を机上に配付する。
会長	議題1 令和6年度多摩市立図書館事業評価項目について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1「令和6年度多摩市立図書館事業評価(自己評価)」の概要を説明する。 基本目標(1) だれもが使える図書館の評価項目障がい者サービスの充実「評価項目 障がい者サービスの充実」の実施結果について、 児童向けだけでなく、大人向けのマルチメディアデイジー図書の購入を行った。マルチメディアデイジー購入数は56点、大人向けマルチメディアデイジー図書を購入し、子どもだけでなくさまざまな特性をもつ方にも図書館を利用する機会を提供することができた。

	障がい者サービス利用者懇談会を行い、実際に障がい者サービスを利用している当事者やボランティアの意見やニーズを把握し、サービス内容に反映させるとともに次期計画に意見を反映させた。開催日は10月24日(木)で参加者は7人。 自己評価は、 中央図書館のりんごの棚や、障がい者サービス書架の飾りつけを行うことで、子どもだけでなくさまざまな特性をもつ方にも図書館を利用する機会を提供することができた。選択肢を増やすことで、一般の利用者の目にも留まりやすく、障がい者と健常者、あらゆる特性を持つ利用者同士の相互理解につなげることができるようになったと考える。今後もバリアフリーの観点からも事業の充実に努めたい。 「障がい者サービス利用者懇談会」を実施することができた。サービス利用者と障がい者サービス事業の運営にかかわる各ボランティア従事者が参加し、当事者目線からの貴重な意見や要望、提案を伺うことができた。今後も定期的に利用者懇談会を実施することで、当事者の意見や要望を事業の運営に反映させていきたい。
事務局	基本目標(2)子どもへのサービスの充実「評価項目 第三次子どもの読書活動推進計画の推進」の実施結果は、 【新規事業】幼稚園、保育園、児童館、学童クラブへの団体貸出のPRとして、図書館ホームページへ掲載やセット内容の一部が分かる案内を作成した。セット貸出の運用方法を通年で利用できる方法へ変更や、希望テーマに合わせた本を選書する「セレクト貸出」サービスを新たに開始・周知した。 図書館定例おはなし会ボランティアの育成として、令和6年度からボランティア希望者に、講座・フォローアップのため、都立多摩図書館より司書をお迎えし、心得や資料の選定方法について講義いただいた。 3月には、紙芝居作家をお迎えし、大人を対象とした講座「はじめまして！紙芝居の世界～その秘密と演技方～」を実施した。 どちらの講座も図書館職員の枠を確保することで職員のスキルアップにも繋がった。 複本の充実として、毎週1回開催している選書会議の中で、新刊以外の複本購入についても適宜実施した。 子どもが本や図書館に親しみを持てるよう、おはなし会やクイズラリーなどのイベントを、全館で実施した。

	【ほんともフェスタ】宇宙についての講座では、これまで参加実績がなかった中高生など幅広い年代の参加があった。小学生向けでは、恐竜に関する講座を実施し、クイズや標本を実際に手に取るなど、子どもたちが集中して参加できる講演となった。『これ読んだよ』郵便では、児童が読んだ本の紹介をするもので、今回は、延べ195名分の投函があった。 【NPO団体との共催イベント】ペープサートの実演とコラージュによるメッセージカード作りを実施、世界にたった一つのカードを作成した。 【各図書館でのおはなし会やイベント】(東寺方図書館)複合施設の秋祭りに参加し 100 人近くの子どもの参加があった。 (関戸図書館)夏休み期間中、子どもたちに「生き物」を書いてもらい児童室の壁に貼った。 (永山図書館)夏休みの自由研究に関する展示テーマとして「せっけんのひみつ」「ポップコーン」布をそめてみませんか」「セミのぬけがら探し」の関連本(40 冊程度)と実験の見本(現物)を展示した。 (唐木田図書館)クリスマスおはなし会を実施した。 (豊ヶ丘図書館)「なぞのもじ」を、たんけん帖を持って探してもらうイベントを開催した。 (東寺方図書館)現在児童館と共同で行っている赤ちゃんお話会よちよち(年3回)以外に、図書館主催の赤ちゃんお話会を行い、アンケートを実施したところ、1 歳未満で初めて参加する方が多く、今後図書館主催のおはなし会があれば参加したいとの前向きな回答があり、希望時期については、3月頃が多かった。 (関戸図書館)新規事業外国語資料の棚をリニューアルし、外国語資料について、言語がわかるよう背表紙に言語名を表示する。所蔵している本の国の国旗を万国旗のように棚に装飾し、併せて、12 か国語の挨拶「おはよう・ありがとう」を世界のあいさつとして紹介、掲示した。 (永山図書館)案内板等の効果もあってか、外国語資料の場所や児童図書の言語の種類について、問い合わせの数が減った。 (関戸図書館)ティーンズの新着コーナーの展示本を増やし、コーナーを充実させる。 自己評価は、 昨年度に比べ多く利用いただくことができ、より多くの子どもたちの
--	--

	もとへ本を届けることができた。 受講者が読み手となる時間を持てると、より実践へのイメージが沸くと感じた。フォローアップを受けた方には、定期的な読み聞かせの場を提供することができた。各種講座への参加をされるなど研鑽を積みながら、継続して実施されている。 児童書 3,640 冊を購入し、内複本として、1,328 冊購入することができた。引き続き対応していく。 各館趣向を凝らし、子どもたちが、様々なおはなしや新たな本と合うきっかけにつながるイベントなど実施することができた。また、普段他館でおはなし会を実施しているボランティア団体が中央図書館の「おはなしのへや」でも行うなどしたことで、団体同士の交流が生まれ、子どもたちの反応の違いなどを知る機会になった。 「ほんとも」の講座では、これまで参加実績がなかった中高生の参加があり、彼らの興味関心に近づくことができた。小学生も興味のある内容であれば、長時間であっても集中力を保てることがわかった。 『これ読んだよ』郵便」では、同年代の子どもたちがじっくり見ている様子が伺えた。展示終了以降も図書館内に設置した『これ読んだよ』郵便専用ポストへの投函やカウンターへの持ち込みを継続して行い、子どもたちが自分の意見を発信できる場所となり、本とつながっていると感じることができている。イベントアンケートからその他の展示についても好評で、時間をもう少し長くしてほしいなどの意見も寄せられた。 調べた本や見つけた場所を話すことで、興味を引き出すきっかけ作りができた。手遊び歌と一緒に歌ったりすることで、子ども達も楽しんでくれている様子が伝わってきた。アンケートの結果、読み聞かせするなら大型絵本が良い、季節にぴったりの読み聞かせが良いなどの声を知ることができた。 本を展示するだけでなく、あいさつなど身近な言葉を各国の言語で見えるようにしたことで、様々な外国語を知ってもらう機会となった。外国語の本の棚であることも分かりやすくなった。 表紙が見えることで、利用者の目にもとまり、ティーンズの新着コーナーが認識されるようになった。
事務局	基本目標 (3) 市民や地域に役立つ図書館、「評価項目 読書活動振興のためのイベントの開催」の実施結果は、 新規事業) 中央図書館開館1周年記念イベントを市民協働で実施した。前年度の2月から3月にかけて図書館デザイン会議(ワークショップ

	プ)を開催、ワークショップ後に企画募集を行い、市民と一緒に企画を決定する企画決定会議(4月)を実施し、図書館で実施する6イベントを決定した。企画者だけでなくイベントに賛同した市民も運営に参加する形で実施した。(応募 22 イベント、実施決定 10 イベント(内1周年記念 6イベント)、1周年記念として実施 5イベント) 中央図書館で、多摩中央公園やパルテノン多摩などの施設や民間事業者と連携したイベントを開催した。 【多摩中央公園との連携】 (本のまち祭り)公園主催で実施(図書館協力)。本のクイズラリー(多摩センターエリアで7ポイント:中央図書館、2書店、パルテノン多摩、公園、パルテノン大通りなど) (ハロウィンイベント)図書館でもバックヤードツアーや本のまちプロジェクトのイベントとして読み聞かせを実施した。中央図書館南側にある花壇のワークショップ(年2回)やリース作り(12月)など図書館の場所を提供などで協力した。 (パルテノン多摩)図書館内にある自動演奏楽器ミニコンサートを3回開催。 (民間事業者との連携) 無印良品、ベネッセコーポレーション、中央図書館内カフェと連携しイベントを開催。 (多摩市内の書店(4店舗)と連携)本を通じたイベント「本のまちプロジェクト」を令和6年度5月から3月にかけて開催した。(丸善多摩センター店、啓文堂書店多摩センター店、くまざわ書店桜ヶ丘店・永山店の4店と同じエリアにある図書館にて) 令和7年度も引き続き実施。 <イベント> 6回開催 5月に各店の店長と図書館長によるトークイベント、読み聞かせイベントは参加者に好評であったが、書店の負担が大きいのが課題となった。おはなし会などのイベントは図書館だけでなく、実施が可能な書店店舗内でも実施することとし、中央図書館、丸善多摩センター店、くまざわ書店桜ヶ丘店で実施した。 <テーマ展示> 10回実施 統一テーマでの展示の際にはブックリストを作成し、図書館・書店の可能な範囲で配布した。夏休みには、書店でも工作キットだけでなく展示した本の売り上げがあったが、書店によってはフェアとは別の展示ができる場所が確保できない場合もあった。また展示が売り上げにつながらなかったとの意見を寄せた書店もあった。
--	---

	高齢者を対象とした「図書館カフェ」を、高齢者福祉に関心のある学生や市民と協働で開催した。関戸図書館を会場にし、昨年と同様に高齢者と大学生が、自分の興味ある分野の本を探したり、借りた本の感想を話し合う内容で実施した。応募の出足が遅かったため、開催直前に近隣の高齢者施設や高齢者を対象とした講座にチラシを配布、直接声かけなどを行った。参加者からは普段交流することがない大学生と本と通じた交流ができたと好評であった。 中央図書館サテライトカウンター前で、ビブリオバトルを世代別に2回に分けて、近隣大学の図書館サークルと一緒に実施した。中高生の部は、応募の出足が遅かったため、市内都立高校に声掛けをした。発表者6人、観戦者17人でアンケートの結果、非常に満足、満足と回答した方が80%と好評だった。大学生以上の部は発表者の定員6人に対し4人、観戦者17人、アンケート結果も非常に満足、満足と回答した方が93%と好評だった。 市民の図書館利用の促進を図るため、図書館について関心をもってもらえるイベント(バックヤードツアー:バックヤード見学や本のカバーかけ体験など仕事ミニ体験)を実施した。参加者は、小学生の部は18人、中学生以上の部は、11人だった。 自己評価は以下のとおり。 市民協働で中央図書館1周年記念イベントを6つ計画し、5つを開催することができた。1イベントが台風のため実施月を変更したため当初予定していた参加者が参加できず中止となってしまった。 他の施設利用者や公園利用者に図書館を知ってもらい、利用してもらいきっかけ作りができたとともに、多摩センター地区の活性化にも寄与することができた。 イベントや展示を行うことで、図書館・書店それぞれの利用者に、来店や利用することなど、読書に関心を持つ機会づくりに繋がった。 参加された方が少なかった原因として、イベントタイトルやチラシ等の内容から高齢者対象のイベントであることやイベントの内容が理解されにくかったことがあると考えられる。わかりやすいイベントタイトルにすることなど、対象者に伝わるPR方法を検討していきたい。 ビブリオバトルは応募の出足が遅く、市内の都立高校に声掛けをし、図書委員の協力を得て定員6人が集まった。学生を対象とした全国大会も実施されており、実施日が大会後だったことも影響していると考えられる。実施日の検討や、近隣の大学にも積極的に声かけをする
--	---

	などPRを工夫していきたい。 小学生以上とすると大人が参加しにくいことから、中学生以上の部を新たに設けることで、大人の参加を促すことができたが、満足度が小学生の部に比べ低かった。書庫の本を自由に閲覧してもらう時間を主な内容とした結果、書庫で戸惑っている方も見られた。 資料1「令和6年度多摩市立図書館事業評価(自己評価)」の説明は、以上である。
会長	事務局から説明のあった議題1について、質問・ご意見等があれば発言をお願いします。
委員	障がい者サービスの充実のマルチメディアデイジーはどの位の利用者がいるのか。
企画運営 担当1主 査	貸し出実績は少ない。
委員	マルチメディアデイジーは、目が不自由な人だけでなく、文字が見えにくい人や活字による読書が困難な方が利用できるものでありもっと広く周知すべきである。
会長	委員の意見は、マルチメディアデイジーは、視覚障害者だけでなく、様々な障がいの人に対応できるものなので広くPRして欲しいということである。利用者数については次回提示して欲しい。
委員	初歩的な質問で恐れ入るが、マルチメディアデイジー図書とは何か。
企画運営 1主査	マルチメディアデイジーとは、視覚障がいがある人や活字がゆがんで見える、知的に障害があるなど様々な原因で印刷物を読むのが困難な人の為に、文字や画像と共に音声により朗読するデジタル書籍である。
会長	マルチメディアデイジーには、飛ばし読み機能や読みたい項目を選択することができる。
委員	マルチメディアデイジー図書はどのように選定するのか。
企画運営 1主査	一般的に人気の図書ではなく昔話など名作系が多い。寄贈で受け入れている子ども向けの絵本もある。
委員	国際交流センターでは日本語ボランティアが少ないと聞いており、マルチメディアデイジーを日本語学習に使用してみてはどうか。子ども向けの本も漢字にフリガナがふってあり日本語の勉強の為には良いと思う。あまり手に取らないと思うので、外国の人が日本語を学習する手段として英語で周知して欲しい。

会長	オーディオブックをこのカテゴリーに使う計画は無いのか。
企画運営 1主査	読書バリアフリー法が施行され、読書保障の一つとしてオーディオブックがある。図書館では電子図書館もあるが、オーディオブックを買うようにしており、作品は流行りの物ではなく名作になる。
会長	誰もが使える図書館という意味で、オーディオブックの使い方も図書館で示して欲しい。 基本目標(1)障がい者サービスの充実の実施結果③障がい者サービス懇談会の参加人数が7名とあるが、障がいの種類は分かるか。
図書館長	当該障がい者は1名で目の不自由な方になる。
委員	利用者懇談会に参加する人は、体調が良く足腰が強く送迎がある環境にいる人。来場が難しい人もいるので、こちらから懇談会に出向いて、取材やアンケートをとることはできないか。
図書館長	新しい計画を立てる時に、権利擁護部会に出向いて計画についての意見を聞いた経緯がある。図書館でも障がい者の講座をやって良いのではないかなど意見があった。機会をみて出向きたい。
会長	基本目標(2)子どもへのサービスの充実について何か質問・ご意見等があれば発言をお願いします。
委員	評価項目⑫の外国語の読み聞かせはどの言語か。対象はどうか。読み手はネイティブか。
企画運営 担当2主 査	言語は英語である。読み手はネイティブスピーカーではなく、子どもたちが理解できるように日本語を交えて行っている。
委員	その目的は何か。英語教室のようなものか。
企画運営 担当1主 査	英語の歌を歌うなどで、子どもに英語を親しんでもらうことを目的としている。一方唐木田図書館は大人向けの外国語の読み聞かせを行っており、ハングルで書かれた絵本を韓国語で読み聞かせている。参加者はハングル勉強中の日本人になる。
企画運営 担当2主 査	唐木田図書館のおはなし会は、絵本の読み聞かせだけではなく手遊びなども取り入れ、読み聞かせが終わった後は参加していない人にも周知できるよう展示も行っている。
会長	参加者の年齢はどうか。
企画運営 担当2主 査	小学生は少なく、未就学児とその母親との参加が多い。
会長	開催曜日も関係するのか。

企画運営 担当2主 査	赤ちゃんおはなし会は平日、その他の多くはおはなし会ボランティアにも協力いただき、土・日に開催している。
会長	評価項目⑭ティーンズの新着コーナーの展示本が認識されるようになったとした根拠はあるのか。貸出数が増えると分かり易い。
企画運営 担当2主 査	感覚になるが、その場所に流れている。コーナーに人が立ち止まったり、集まっているように感じている。
図書館長	職場体験にきた生徒から聞くこともある。
委員	評価項目②おはなし会のボランティアの育成講座を開催したとのことだが、その後ボランティアとして活動した実績はあるのか。
企画運営 担当2主 査	新規団体が1つでき、年に4回ほど活動している。そのほかにも、既存団体で活動を始めた方や個人で活動を始めた方もおり、個人の方については、外部団体のイベントを活動場所として、図書館職員とともに活動いただいている。読み聞かせで子どもを練習の土台にはしたくないため、講座開催後、職員が聞き手となり練習を行い、活動を始めていただいている。
会長	フォローアップの効果が表れている。評価項目④ブックリストの改訂はあるのか。
企画運営 担当2主 査	現行のブックリストは主にブックスタートで配付しており、平成28年に作ったものである。掲載されている本は昔から読み継がれているものが多く良いものであるが、残部が少なくなっていることもあり、掲載内容を見直し、より手に取っていただけるようなものに今回改訂をしたいと考えている。
委員	ブックリストに興味がある。
会長	評価項目【障がい者サービスの充実】の、中央図書館の評価につき意見はあるのか。利用し易いバリアフリー施設になっている。
委員	建物は入りやすい雰囲気、館内も興味がつながるように本が配下されている。
会長	評価項目【第三次子どもの読書活動推進計画の推進】はどうか。自己評価として、数字で出せるとこは積極的に出して欲しい。自己評価につき異論ないか。
	———異論無し———
図書館長	現在、市民協働イベントを7月まで応募を受けつけており9月に決定する予定である。

会長	大妻女子大学からの応募もあるかもしれない。自己評価は問題無しと評価する。
会長	議題2 第二次多摩市読書活動振興計画について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料2-1「第二次多摩市読書活動振興計画(素案)について【概要版】」について説明する 計画の目的は、各法律に基づき、市民の読書活動の振興を図ること。またその土台となる図書館については、図書館法に基づく文部科学省告示「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等を踏まえ、図書館の課題を明らかにし、運営の改善を図ることを目的としている。 これまでの経緯は、多摩市立図書館の長期事業計画である「多摩市読書活動振興計画」は、令和3年3月に計画期間終了を迎えたが、当時中央図書館開館に向け準備を進めていたこと、また、地域館の大規模改修を控えている中で不確定要素が多いことから、改定は中央図書館開館後とした。また改定にあたっては、もう一つの個別計画である「多摩市子どもの読書活動推進計画」と一本化することで、従来の両施策を相互に補完し、子どもから大人まで切れ目なく読書活動の振興を一体的かつ実効性のあるものとして推進していくことを目指している。 計画の位置づけと計画期間は、「多摩市総合計画」と教育振興の基本計画である「多摩市教育振興プラン」を上位計画とし、市民の読書活動や学びの振興を図り、その土台となる図書館について整理した個別計画と位置づけている。本計画の計画期間は令和7年10月～令和11年度で実質4年6か月である。 各図書館の役割分担は、図書館ネットワーク網の中核となる中央図書館を中心にサービス機能をネットワーク化し、中央図書館は豊富な蔵書と多様な読書環境によるフルサービス、関戸・永山図書館は駅前拠点図書館として駅前利便性を生かしたサービス、東寺方・豊ヶ丘・聖ヶ丘・唐木田図書館は地域図書館として地域に向き合うサービス、行政資料室は行政資料に特化したサービスを提供。その時々ニーズや課題にあわせて、各館を使い分けできるような図書館サービスを提供する。 多摩市立図書館の主な課題は、世代や障がい・性別・人種や国籍など多様な背景をもつ人々の読書や必要な情報を入手できる環境の充実や、子どもの読書や学習・居場所、試行で運営している図書館（東寺方・唐木田図書館）の運営方法の検証、施設の老朽化などが挙

	げられる。 計画の進行管理・評価として、多摩市図書館協議会に、各年度の実施状況及び達成状況を報告・評価等を行い、PDCAサイクルで取組を推進する。 計画の体系として、基本理念は「市民の「読む」「知る」「学ぶ」を支援し、自ら考え、共に課題を解決できる、心豊かな地域を育みます～「知の地域創造」の実現へ～」。基本方針は、基本理念の実現を目指し、次のとおり4つの基本方針と、基本方針の下に施策を設ける。 「基本方針1 だれもが使える図書館」では、主な施策として高齢者サービスの充実、読書バリアフリーの充実。 「基本方針2 一人ひとりの子どもに寄り添うサービス」では、多摩市立小中学校への協力・支援・連携。 「基本方針3 市民のしらべるを支え、役立つ図書館」では、蔵書やレファレンスサービス提供の充実、読書活動に関心を高めるための事業の実施、各図書館の地域性を生かしたサービスの提供。 「基本方針4 持続可能な図書館の管理・運営体制の充実と強化」では、各図書館の機能強化・運営体制の整備、ICT活用、職員の専門性向上、市民ニーズの把握・反映。 資料2－1「第二次多摩市読書活動振興計画(素案)について【概要版】」説明は以上である。 その他の資料として、新計画の目次的なもの、計画の概要、現状と課題、基本理念と基本方針、計画の内容、計画の推進体制などがある。 それぞれの基本方針に施策があり、数値化して分かり易く評価するため、評価指標を定めている。
会長	基本理念は、多摩市の課題を抽出した上で構成している。本定例会の意見を今月末の有識者会議に諮ることができるので、是非意見を述べてもらいたい。
委員	施策1－3若者の図書館利用の促進とあるが、昨今スマホが普及し若者は読書をしないと思うがどのような方策があるか。
図書館長	中央図書館にはティーンズコーナーを設置しており、ラーニングコモンズでは机上のポップスタンドで若者向けの図書の紹介をする他、永山図書館で若者向け図書の展示もしている。電子図書館もあるので、紙の図書と合わせて若者の利用を促進している。
企画運営	施策1－3で若者対象のイベントも実施している。

担当1主査	
委員	夏季休暇中は若者の来館が増えると思うので、展示など企画して欲しい。
会長	図書館以外で若者が集う場所に図書館の本を配下し、周知してもらいたい。施策1－3で地域ビジネス支援もあるので、本を読まない若者にとっても利用価値がある。
図書館長	7月から月曜日に創業経営相談を図書館でも受ける予定である。
委員	施策4－4で市民からの問い合わせに適切に対応できる職員の専門性の向上とあるが、質問すれば即座に教えてくれる ChatGPTと職員の違いは何か。
企画運営担当1主査	ChatGPTは調べものもしてくれる生成 AI で、本の内容から調べるのではなく、インターネット上から情報を持ってきていて不正確な場合がある。生成AIの活用も必要な技術であるが、本で適切な情報を伝えると共に、図書館に来ればデータベースなど正確な情報が得られると案内する職員の育成が必要だと考える。
委員	職員はレファレンス研修を受講しないのか。
企画運営担当1主査	レファレンスに関しては定期的に都立図書館や国立国会図書館で研修を受けたり、図書館の館内研修では講師を招きデータベースの活用方法などの講座を行っている。
会長	AIの知識を持った図書館職員の育成が必要。図書館のためのAIコンセプトもあるので参考にして欲しい。データベースはどの位利用しているのか。
企画運営担当1主査	利用状況はデータベース会社により報告があるが、集計の取り方などは会社によって異なっている。最近の問い合わせは地方新聞に関するデータベースの問い合わせが多く、図書館で契約しているデータベースはレファレンスで案内している。図書館では利用者がインターネット使用申請すれば使える環境だが、まだ利用が少なく浸透されていないように感じる。
会長	データベース講座の案内はあるのか。
企画運営担当1主査	ヨミダス講座を開催し、8人受講があり好評だった。全てを毎年開催するのは難しいが定期的に実施したい。
委員	市民協働について、パートナーズコーナーがあるが、市民協働のコーナーが使われていないのでうまく活用して欲しい。

図書館長	パートナーズコーナーの活用は課題と認識している。
会長	今年度の市民協働イベントを希望する声はあがっているのか。
企画運営 担当1主 査	出足が遅く、本日、大学と高校に声かけをしたところなので期限の7月中には集まると良い。
会長	報告1 中央図書館座席利用方法の変更について、事務局から説明をお願いします。
事務局	令和5年7月に中央図書館が開館した当初は「個人研究室」「グループ研究室」を除き、座席は利用者カードの有無にかかわらず誰でも自由に利用可能としていた。しかし、学生の利用が予想以上に多く席が不足している。また荷物を置いて長時間離席している、本を閲覧したいのに席が無いという声が多数寄せられ、2月に社会人席を設けて対応したが、土日や試験期間中は特に席が埋まっている状況を解消するため、今年度6月より座席運用方法を変更した。変更内容としては2階窓側閲覧席22席を手動で管理している。利用対象は多摩市在住・在勤・在学の中学生以上で4時間以内とした。また個人研究室及びグループ研究室の利用時間を現在の二部制から受付後4時間以内に、利用対象を中学生以上に変更した。利用実態として平日は空いている席もあるが、土日の列は解消していないので引き続き課題として認識している。
会長	土日の朝は開館前から行列ができています。利用者が増える一方で利用できない人がいる為、どこかで線引きしないといけない。
図書館長	座席運用方法変更の初日はクレームを想定していたが無かった。土日の混雑緩和のため、座席管理システムの導入を検討したい。
会長	しばらく経過を観察して欲しい。
会長	報告2 多摩市子ども読書活動推進市民ボランティア連絡会設置要綱について、事務局から説明をお願いします。
企画運営 担当2主 査	第三次多摩市子どもの読書活動推進計画が昨年度末で終了した。子どもの読書活動推進には、今後も市民団体の協力が必要であることから、計画に基づく連絡会を子どもの読書活動推進に関する法律に基づくよう改正し、委員任期は2年とした。
会長	市民ボランティア連絡会の開催頻度はどれくらいか。
企画運営 担当2主 査	年に4回実施予定である。昨年度は3回開催した。

会長	今回、令和6年度多摩市図書館事業評価の内部評価について意見があったので、事務局で纏めてもらいたい。 これで令和7年度多摩市図書館協議会第2回定例会を閉会する。
事務局	次回の協議会は、令和7年8月22日(金)に開催する。詳細は別途通知する。